

● 2018年の世界の主な火山活動

平成30年(2018年)に被害を伴った噴火が報告された主な火山(日本を除く)*は以下のとおりである。

キラウエア(Kilauea) アメリカ(図中A) 標高1,222m

キラウエアでは、5月3日に長さ150mの割れ目火口から噴火し始めた。その後、複数の割れ目火口が開き、溶岩が流れた。5月17日以降、爆発的噴火も発生し、ワシントンVAACによると5月17日04時15分頃の爆発的噴火では噴煙が9.1kmまで上昇し、北東に流れた。ハワイ郡市民防衛局によれば、6月17日までに533戸の家が溶岩流により破壊された。また、ハワイ郡市民防衛局によれば、7月16日早朝に海岸付近で発生した爆発的噴火による火砕物がツアーボートに直撃し、乗船していた23名が負傷した。

フエゴ(Fuego) グアテマラ(図中B) 標高3,763m

フエゴでは、6月3日に爆発的噴火が発生した。ワシントンVAACによると、噴煙が海拔9kmまで上昇した。報道によると、火砕流が少なくとも8km流下し、その温度は700度に達した。ラ・アウロラ国際空港は3日から4日にかけて閉鎖された。その後も爆発的噴火が度々発生し、火砕流や火山泥流が流下した。グアテマラの国家災害対策調整委員会(CONRED)によれば、7月3日現在、6月3日の火砕流で113人が死亡し、197人が行方不明のままである。また、12,823人が避難している。

クラカタウ(Krakatau) インドネシア(図中C) 標高813m

6月頃から噴火が断続的に続いており、12月22日に山体崩壊によると考えられる津波が発生した(インドネシア火山地質災害対策局(PVMBG)による)。ダーウィンVAACによると、12月23日に噴煙が海拔約16kmまで上昇しているのが衛星で確認された。

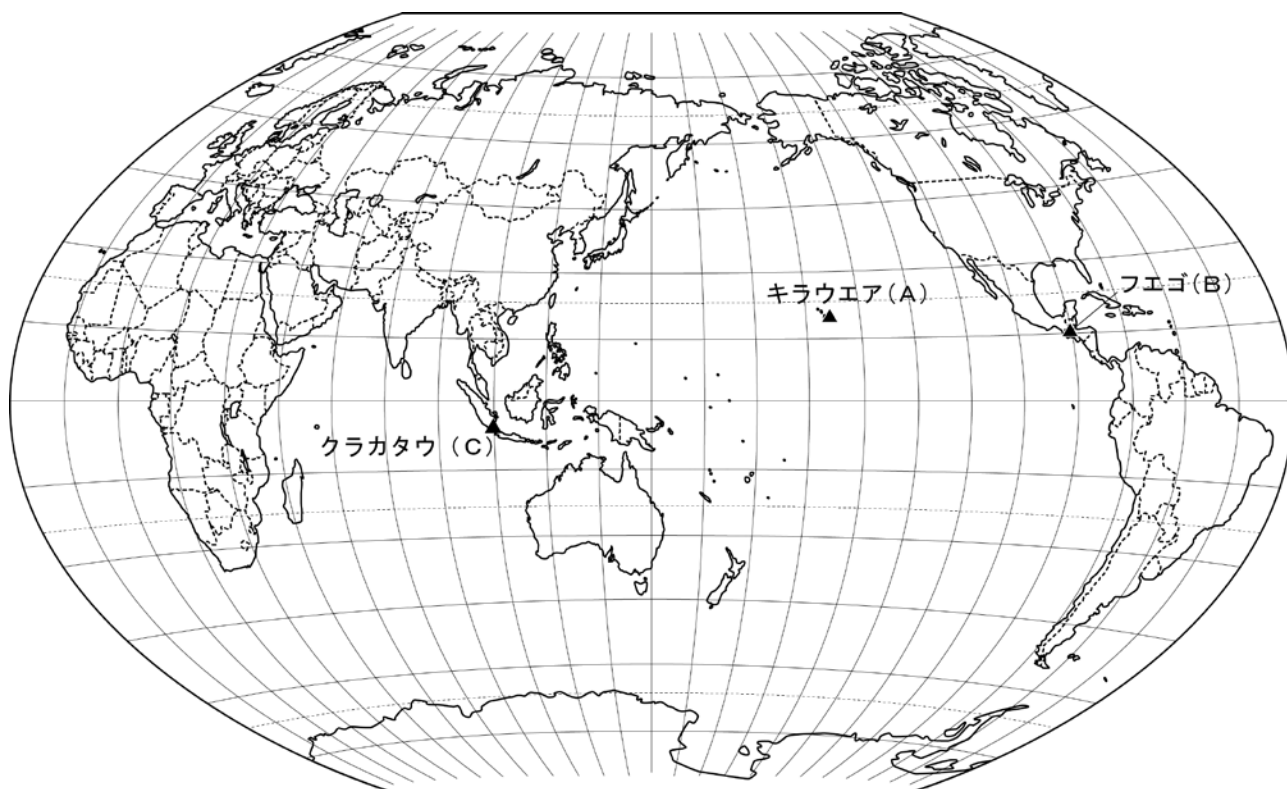


図 平成30年(2018年)に被害を伴った噴火が発生した主な火山(日本を除く)*

- * 米国スミソニアン自然史博物館のホームページ“Global Volcanism Program | Smithsonian / USGS Weekly Volcanic Activity Report” (http://www.volcano.si.edu/reports_weekly.cfm)、インドネシア火山地質災害対策局のホームページ“Kebencanaan Geologi” (<http://www.vsi.esdm.go.id/>)、ダーウィン VAAC のホームページ“BoM-Darwin Volcanic Ash Advisory Centre” (<http://www.bom.gov.au/info/vaac/>) による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。